

平成17年人口動態統計（確定数） 石川県分の概況

「平成17年人口動態統計（確定数）の概況」[厚生労働省大臣官房統計情報部集計・11月30日公表（厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei05/index.html>）]による石川県関係分は、前年に比べ死亡数は増加、出生数、死産数、婚姻件数、離婚件数は減少した。

【出生】

- ・ 出生数は、平成元年から平成13年までは、毎年1万1千人台で推移していたが、平成14年から1万1千人を切っている。
平成17年の出生数は10,049人で、平成16年の10,528人より479人減少した。
- ・ 平成17年の出生率(人口千対)は8.6で、平成16年の9.0より0.4減少した。
なお、全国平均は8.4で、本県はそれよりも高い。
- ・ 合計特殊出生率は、昭和40年代後半の第2次ベビーブームの後には、低下傾向にあり、平成17年の合計特殊出生率は1.35で、平成16年と同率であった。
なお、全国平均は1.26で、本県はそれよりも高い。

【死亡】

- ・ 死亡数は、平成9年から平成14年までは、毎年9千人台で推移していたが、平成15年、平成17年と1万人を超え、平成17年の死亡数は10,376人で、平成16年の9,976人より400人増加した。
- ・ 平成17年の死亡率(人口千対)は8.9で、平成16年の8.5を上回った。
なお、全国平均は8.6で、本県はそれよりも高い。
- ・ 死亡原因の順位は、第1位 悪性新生物 3,100人(人口10万対265.8)、第2位 心疾患 1,768人(人口10万対151.6)、第3位 脳血管疾患 1,237人(人口10万対106.1)であった。

- ・ また、平成17年の乳児死亡数は30人で、平成16年の33人より3人減少し、平成17年の乳児死亡率(出生千対)は3.0で、平成16年の3.1を下回った。
なお、乳児死亡率の全国平均は2.8で、本県はそれよりも高い。

(自然増加 戦後初めてのマイナスとなる)

- ・ 出生と死亡の差である自然増加数は327人で、平成16年の552人より879人少なく、戦後初めてマイナスとなった。
また、自然増加率(人口千対)は0.3で、平成16年の0.5を下回った。
なお、自然増加率の全国平均は0.2で、本県はそれを下回った。

[死産]

- ・ 死産数は、平成9年以降、毎年300胎前後で推移しているところであるが、平成17年の死産数は259胎で、平成16年の292胎より33胎減少した。
平成17年の死産率(出生+死産千対)は25.1で、平成16年の27.0を下回った。
なお、死産率の全国平均は29.1で、本県はそれよりも低い。

[婚姻]

- ・ 婚姻件数は、平成11年以降、毎年6千組台で推移しているところであるが、平成17年の婚姻件数は6,052組で、平成16年の6,187組より135組減少し、平成17年の婚姻率(人口千対)は5.2で、平成16年の5.3を下回った。
なお、婚姻率の全国平均は5.7で、本県はそれよりも低い。

[離婚]

- ・ 離婚件数は、昭和40年代以降、増加傾向にあったが、平成14年から減少に転じ、平成17年の離婚件数は1,907組で、平成16年の2,070組より163組減少し、平成17年の離婚率(人口千対)は1.63で、平成16年の1.77を下回った。
なお、離婚率の全国平均は2.08で、本県はそれよりも低い。

人口動態総覧（石川県分）

	実 数		率		平均発生間隔	
	平成 17年	平成 16年	平成 17年	平成 16年	平成 17年	平成 16年
出 生	10,049	10,528	8.6	9.0	時 分 秒 52: 18	時 分 秒 50: 04
合計特殊出生率	-	-	1.35	1.35
死 亡	10,376	9,976	8.9	8.5	50: 39	52: 50
乳 児 死 亡	30	33	3.0	3.1	292: 00: 00	266: 10: 55
新 生 児 死 亡	14	17	1.4	1.6	625: 42: 51	516: 42: 21
自 然 増 加	327	552	0.3	0.5
死 産	259	292	25.1	27.0	33: 49: 21	30: 04: 56
自 然 死 産	137	143	13.3	13.2	63: 56: 30	61: 25: 36
人 工 死 産	122	149	11.8	13.8	71: 48: 12	58: 57: 11
周産期死亡	52	68	5.2	6.4	168: 27: 42	129: 10: 35
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	40	52	4.0	4.9	219: 00: 00	168: 55: 23
早 期 新 生 児 死 亡	12	16	1.2	1.5	730: 00: 00	549: 00: 00
婚 姻	6,052	6,187	5.2	5.3	1: 26: 51	1: 25: 11
離 婚	1,907	2,070	1.63	1.77	4: 35: 37	4: 14: 37

(注) 1 平成17年、平成16年は確定数である。

2 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対であり、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

主な用語の定義

自然増加：出生数から死亡数を減じたもの

合計特殊出生率：15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供数に相当する。

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの